令和３年度第２回生涯学習推進協議会
会議要旨

日　　時：令和３年９月３日（金）午後３時から
場　　所：京田辺市役所３階　３０５会議室

１　開会
会長あいさつ

２　議事
（１）第２次京田辺市生涯学習推進基本計画の成果と課題について
（事務局）【資料１について説明】
（委員）　文化コーディネーター養成講座は、次期計画ではなぜ廃止なのか。
（事務局）京都府の補助金を受けながら講師をお願いして取り組んでいたが、期間が経過したため廃止となった。
（委員）　生涯学習推進協力員の名簿等については各自治会から市へ提出されているのか。
（事務局）届出というのは特に求めていない。
（委員）　自治会が協力員を把握していない場合は、その地区にはいないという理解でよいか。
（事務局）おられない。
（委員）　自己評価の点数があまりにも高い。公平性・透明性がどこまで担保できるのかと思う。評価基準や採点方法を透明化しておくことが重要だと思う。
（委員）　評価も高く、きれいにそろえ過ぎている資料となっている。これでは改善すべき点が見えにくい。
（会長）　評価方法については、担当部局に対する調査の仕方等を今後の課題としたい。
（事務局）前期計画では数値目標を出していなかったため、達成度という形で評価した。
（会長）　今後こういう調査を行う場合には、しっかりした方針を立てる必要がある。

（２）生涯学習に関するアンケート調査（個人・団体・区 自治会）の結果について
（事務局）【資料２について説明】
（委員）　自分が住んでいる自治会では、自主的に公民館で専門家による健康に関する講座を実施している。他の地域でもこのような活動を推進してもよい。
（委員）　人材が活動できる場を増やす必要がある。生涯学習に関するシルバー人材センターのような仕組みができればと思う。
（会長）　生涯学習の人材に関するデータバンクは現在もあるが、あまり活用されていない。地域の公民館を活用すればよいと思うが、うまくいかないという状況。

（委員）　スポーツなど人々が必要としているものをメニューに入れて行く必要がある。
（委員）　生涯学習推進協力員については、レベルの向上や活動の場の確保、周知などが必要だと思う。
（会長）　協力員の活動を活性化していくための方法をこの協議会で考えていければと思う。
（委員）　情報の発信・収集と人材の活用が課題だと思う。行政に対して会員募集の支援や活動への支援という要望があるが、その前に情報発信が必要。市の公式ＬＩＮＥを活用し、興味のある分野の情報を発信する必要もある。活動団体の多くが高齢化しており、現役世代を巻き込んでいく必要がある。人材バンクの周知不足も課題である。学びの場の提供と共に、人材活用についても計画に入れる必要がある。
（委員）　広報紙は、これまでは自治会員でなければ配布されなかったが、１年ほど前から全戸配布になった。変更前後の情報の伝わり方は変わっていると思われる。
（委員）　市の配布物には興味を持てない内容が多い。人を惹きつけるようなものを考えていく必要がある。
（委員）　学習のきっかけづくりとしてコーディネーターが必要だと思う。市内にも相当数いると思う。そのような人材を活用できる制度を整える必要がある。
（委員）　地区公民館での活動が盛んな所とそうでない所の二極化が進んでいる。コーディネートする人やリーダー的な人がいる、いないということが要因かもしれない。

（３）第３次京田辺市生涯学習推進基本計画骨子案について
（事務局）【資料３について説明】
（委員）　骨子案は概要であり、今後それぞれの施策の具体的な内容を打ち出していくのか。
（事務局）内容が書かれた施策案は示すが、具体的な事業名までは示さない。本計画は、今後各課が様々な事業を行っていくための理念や方針を示していくものと想定している。
（委員）　具体的な施策についての議論も今後できるということか。
（事務局）可能である。
（委員）　親がもっと家庭教育に取り組むことが必要とされているが、それがなぜ忙しくて時間がない市民の生活に合わせた学習の在り方の検討という課題につながるのか。また、家庭教育について、公のところから指示してほしくないという意見もあると思う。

（事務局）本市としては社会教育として家庭教育の支援を行っていきたいと思っている。時間がないということで家庭教育講座を開催しても参加が少ない現状があり、市民の生活に合わせた時間、形態で開催等の支援を行いたい。

（委員）　個人アンケートでは年代別など多様なニーズがあり、それらを施策に生かし、それぞれに合った学習提供が必要。団体の活動においてもそれぞれの活動内容に合わせた形で施策を打っていく必要がある。また、リカレント教育の推進は市単体ではできないと考える。それらを検証して施策に生かすべき。

（委員）　基本目標１には「社会人の学び直し」と書かれているが、これにはリカレント教育も含まれていると思うが、現役世代の学習については市が力を入れるべき年代ではないと思う。「社会人の学び直し」という表現を変えた方がいいと思う。

（委員）　生涯学習推進協力員は、今後きちんと任命されれば活躍できるのではないか。コロナの影響で他の人と画面を通して会う機会もあるが、対面での空気とは違う。自治会に加入する人が減っており、防災など地域のつながりが重要。協力員による学びを通じた交流のためにも、各地域にきちんと設置すべき。

（委員）　どこで情報を入手できるかという情報提供が必要である。

（委員）　最近はインターネットでの会議も多いが、今日のように実際に顔を合わせて話すことに意義がある。

（会長）　非常に貴重な意見がたくさん出た。素案には今日の貴重な意見をもとに作成していただきたい。

３　その他

（事務局）【今後の日程について説明】

４　閉会